

秋岡コレクションを知る

どま工房では、企画展示や手道具を使ったモノづくりのワークショップ「どま塾」などを開催し、人間が五感で感じる技や知恵を共有しながら、新しい生活文化を創造する空間として、活動しています。



秋岡コレクション企画展「手で見ル 手で知ル 日本ノ道具」



企画展のワークショップ、手道具を使った木杓子作り

●秋岡芳夫さんが遺したモノ

那珂琴絵研究員に、資料集の発刊を終えた現在の心境を伺うと「資料集としての整理は終わりましたが、秋岡コレクションはまだ知られていないため、どのように情報発信していくか、どんな風に活用していくかを模索しています」と話し、これからがはじまりと表情を引き締めています。

「手道具を使う機会が減っている子どもたちや学生に秋岡コレクションを紹介したいと考えて



ています。実際に手道具を使うと、最初は上手く扱えませんが、そこからどうやったら手道具を扱えるようになるのかを考えるようになります。子どもたちには、そんな経験をしてほしいと思います。

那珂琴絵研究員

また、性別や世代を問わず、実際に触れ、使い方を学ぶことで手道具の面白さを理解することができると思います」

秋岡芳夫さんが遺したモノは、日本人が持つ細やかな感性と「人間の手の力」を信じ、「作り手自らが考え、モノを作る喜び」を伝えるとともに、「使い捨てではない心豊かな暮らし」を見直すきっかけとなる貴重なコレクションといえます。



「どま工房」

■資料集「日本の手仕事道具集—秋岡コレクション—」は、図書館でご覧いただけます。また、購入希望や秋岡コレクションについて詳しく知りたいかたは、オケクラフトセンター森林工芸館（☎0157-52-3170）にお問い合わせください。（資料集の価格：1冊1,000円または1,500円）



秋岡コレクションを紹介します！

「実際、どんな資料があるの？」そんな皆さんに多彩なコレクションの数々を紹介します。

コレクションは、^{かな}鉋、^{のみ}鑿、^{はけ}刷毛、包丁類などの「製作のための道具」、食器類、調理用具などの「食のための道具」、生活用具、玩具、郷土民芸品などの「暮らしのための道具」、農林漁業具、運搬具、計量具などの「生業のための道具」、樹の器や竹とんぼといった「秋岡作品」、「その他」、「名称・用途不明」の7項目に分類されています。同じ作業で使用される道具であっても、作るモノや場面、生産地によって形状が異なる場合があります。